

大学院商学研究科「紀要」投稿要領（学生用）

2000年 4月26日改訂

2001年11月16日改訂

2003年 5月28日改訂

2008年 5月21日 改訂

2012年 1月18日 改訂

2012年 3月7日 改訂

2013年 3月6日改訂

2014年 7月9日 商学研究科運営委員会改訂

I . 投稿要件

- ① 大学院商学研究科主催の学生研究発表会（年2回開催）において発表した内容にもとづく論文とする。
- ② 投稿希望者は発表会終了後、1週間以内に投稿申込を行い、指定された期日（発表会の約1カ月後）までに指導教授もしくは商学部所属の専門科目担当教員による所見書（所定用紙）を添えて原稿を提出することとする。
- ③ 投稿された論文は商学学術院の常勤教員等による査読を経て、「掲載に値する」と評価されたものについてのみ掲載する。
なお、掲載された論文の著作権は、大学院商学研究科に帰属する。
- ④ 「研究発表→投稿」のプロセスはその都度踏むこととし、投稿のみ次号に持ち越すことはできない。次号への投稿を希望する場合は、次回学生研究発表会での発表を行うこととする。
- ⑤ 投稿希望者は商学研究科紀要と WASEDA BUSINESS & ECONOMIC STUDIES に同一論文を重複して投稿することはできない。
- ⑥ 投稿された論文が、編集委員会の議を経て、剽窃その他不正行為と認定された場合、認定された日より最大で1年間、商学研究科紀要と WASEDA BUSINESS & ECONOMIC STUDIES への投稿を禁止する。

II . 形式

原稿サイズ・文字数・行数

- ⑦ 原稿はA4版・横書きモード、40字×34行（1頁1,360字）で作成すること。

原稿枚数制限

- ⑧ 原稿（図表、注、参考文献を含む）は20頁以内とする。

原稿提出方法

- ⑨ データを保存した記録メディア1点と出力紙（A4サイズ）1部を提出すること。
- ⑩ 表記方法に関する特殊な指定等は、出力紙に赤字で記入すること。

・要旨

- ⑪ 本文に先立ち、要旨を400字以内で入れること。

注

- ⑫ 表記は脚注形式とすること。
- ⑬ 注番号は右肩に（ ）（両カッコ）で記入すること。

参考文献・資料

- ⑭ 著者名のアルファベット順に示すこと（「修士論文作成の手引き」(P.8～9)を参照）。

図表

- ⑮ 図表等については、記録メディア・出力紙の両方に挿入する場所を指示すること。
 ⑯ 図表等については、原稿提出時にレイアウトイメージとあわせて刷り上がり時の希望サイズを指示すること

例) 図 1 : 縦 10cm × 横 13cm

表 1 : 縦 15cm × 横 10cm

- ⑰ 改頁不可のものは、その旨出力紙に明記し、あらかじめ改頁不要な場所に配置すること。

Ⅲ. 印字ポイント

- ⑱ 原則として完成時の印字ポイントは下記のとおりとする。

<本文（注・参考文献含む）>

区分	サイズ・フォント	配置等
主題（タイトル）	16ポイント／明朝	センタリング
副題（サブタイトル）	9ポイント／明朝	センタリング(前後を”—”で囲む)
執筆者名	12ポイント／明朝	右寄せ
本文	9ポイント／明朝	左寄せ
節	12ポイント／ゴシック	センタリング
項（節内の小見出し）	10ポイント／ゴシック	左寄せ
注・参考文献	8ポイント／明朝	左寄せ
注・参考文献見出し	8ポイント／ゴシック	左寄せ

注1) 節・項の区切りの部分では1行スペースを入れること。

注2) 欧文は基本的に Times New Roman とするが「節」「項」「注・参考文献見出し」は Arial とする。

<図表>

区分	サイズ・フォント	配置等
見出し	8ポイント／ゴシック	センタリング
データ	8ポイント／明朝	執筆者指定どおり
注・出所	7ポイント／明朝	左寄せ
単位等	7ポイント／明朝	執筆者指定どおり

注) 図表のサイズによっては変更されることもある。

Ⅳ. 校正

- ⑲ 提出された原稿は、誤字・脱字を除き、改変することはできない。
 ⑳ 執筆者による校正は二校までとする。三校以降は責了とする。
 ㉑ 校正戻しの期間は初校の場合1週間以内、二校の場合4日以内とする。

以上

投稿申込受付・原稿提出受付・査読結果通知・校正受け渡し等、紀要発行に関わる事務は大学院商学研究科事務所でを行い、スケジュール等に関する案内も同掲示板で行います。